

外国人留学生による三重地域文化発信

— 国際交流センター科目「日本事情 I」における Virtual Exchange の取組み —

正 路 真 一

Presenting Mie Regional Culture to Students in Another Prefecture: A Virtual Exchange Project in a CIER class, “Japanese Culture I”

SHOJI Shinichi

〈Abstract〉

This article reports a Virtual Exchange (VE) project in a Center for International Education and Research (CIER) class, “The Society and Culture of Mie”, which was offered to international students at Mie University. In this project, the international students conducted poster presentations in Japanese, which introduced the regional culture of the prefecture of Mie to students attending the University of Shizuoka. The objectives of the project were to encourage the international students to (i) study the Japanese language and (ii) to become (unofficial) ambassadors that build bridges between the prefecture of Mie and their home countries. The post-project questionnaire, given to students who presented, indicated that the project elicited moderate effects of the above (i) and (ii) objectives.

キーワード：地域文化、日本語、プレゼンテーション

1. はじめに

2020 年前半のコロナ禍以降、三重大学を含む世界各地の教育機関では、Zoom 等のツールを用いたオンライン授業が急速に普及した。こうした遠隔型の教育活動の手法として Virtual Exchange (VE) が注目されており、特に語学学習や国際交流活動の分野ではコロナウィルスの発生以前からその有用性が認められていた (池田 2016; Hagley 2016; Hagley & Harashima 2017)。VE とは、オンラインツールを用いて学生が遠隔地の学生 (例えば海外の学生など) との交流などを通じ、異文化コミュニケーション能力を高めることに効果を発揮するものであり、しかもコストを低く抑えられることが利点として挙げられる (池田 2016)。日本の大学で行われた VE 活動の事例としては、例えば Hagley (2016) が、室蘭工業大学の学生と他の国内大学およびコロンビアやベトナムの学生との英語のみによるオンライン語学学習活動を報告している。

筆者は三重大学の国際交流センター科目として「日本事情Ⅰ：三重の社会と文化」を担当している。この科目は外国人留学生を対象とした科目であり、日本語能力の向上はもとより三重県について学ぶことを目的とした地域文化学習科目でもある。本科目は 2020 年前期においてはすべてオンラインで実施されたが、筆者は 7 月 7 日から 8 月初旬の学期末までの 5 週において VE を活用し、国内の他大学の学生（そのほとんどは日本人学生）との交流活動を取り入れた。特にオンラインで進められる授業においては語学学習に必要な発話練習の機会が限られているが、本取り組みはその欠点を補完するものでもある。本稿ではその VE 活動の実践を報告する。

2. 取り組みの実践

2.1 参加学生

本取り組みに参加したのは、「日本事情Ⅰ：三重の社会と文化」を受講している 10 名の外国人留学生である。10 名の外国人留学生の内訳は、3 名のタイ人、3 名のドイツ人、3 名の中国人、1 名のカンボジア人であった。彼、彼女らは 1 名の大学院短期特別研究学生（中国人）を除き、全て三重大学の協定校からの交換留学生であり、これらの交換留学生は皆、日本語または日本学を専攻とする学生であった。（うち二人は、日本語とともに韓国語と英語も専攻とする学生であった。）これらの学生達の日本語能力は、彼、彼女らがこれまでに合格した日本語能力試験（JLPT）の結果および三重大学の日本語レベル判定試験の結果から、日本語能力試験の N1～N3 程度のレベルにあると推察される。

2.2 活動の目的と内容

本 VE 活動の内容は、「日本事情Ⅰ：三重の社会と文化」の科目の目的に鑑みて、三重県に関する何らかのテーマ（名所、産物、三重県出身の人物など）について 5 分程度のポスタープレゼンテーションの形を取り、三重県外の他大学の学生に対して発表するものとした。この取り組みの目的は、第一に VE を通して見ず知らずの日本人学生に対して日本語で発表を行い、そしてフィードバックを得ることで、留学生（発表者）の日本語学習意欲を高めることである。さらに第二の目的は、三重県についての調査と発表を行った留学生（発表者）が三重県についての理解を深め、三重県と母国を結ぶ広報大使のような存在となるということである。本稿は、上記の二つの目的が果たされたかについて、受講学生を対象とした事後アンケートの結果を基に報告する。さらに本取り組みは、長期的にはインバウンドの拡大にも繋がる可能性がある。外国人留学生が三重県について調査しそれを他県の学生に発表することで、視聴者である他県の大学生および発表者である留学生の母

国での友人等の三重県への旅行意欲が刺激され、これが三重県の観光業等の活性化に繋がるといえる可能性である。

ポスタープレゼンテーションで三重県を紹介するに当たっては、その発表の視聴者として、静岡県立大学の教員とその教員が担当する科目「日本語表現法ⅠA」の受講学生に協力を仰いだ。静岡県立大学は2019年10～11月に米国ノースカロライナ大学と協働してCOILプロジェクトを実施した大学である。COILとは Collaborative International Learning の略語で、VEの下位範疇にあたるものであるが、本稿で報告するVE活動については、上のCOILプロジェクトを担当した静岡県立大学国際関係学部の教員に協力を依頼した。

おおまかな活動手順としては、まず、三重大学の外国人留学生が、自身がポスター発表をしている様子をZoom等を使って自分で録画し、その動画ファイルを全て、筆者がインターネット上で作成したブログに掲載した。これを受けて静岡県立大学の学生は、ブログ上で三重大学の外国人留学生のポスター発表動画を視聴し、その発表に対しての感想等のコメントを同ブログの画面上に投稿することとした。45名の静岡県立大学生に対して三重大学の留学生10名が合計10のポスタープレゼンテーションを準備したが、45名がどのプレゼンテーションを視聴するかは、静岡県立大学の教員によって均等に振り分けられた。また、三重大学の留学生のプレゼンテーションが掲載されたブログは、本取り組み用に筆者が作成したものであり、一般的な検索ツールでは見つからないよう、URLを知っている者のみ視聴可能と設定した。次節に、上記の活動の詳細を報告する。

2.3 実施

2.3.1 準備（7月7日～7月27日）

本取り組みでは、7月7日～27日の約3週間を準備期間とした。まず、7月7日の授業において、筆者が作成した発表動画掲載用ブログの画面を見せながら、2.2節に述べたような本取り組みの概要を説明し、さらに幾人かの受講生にとって馴染みがないであろう「ポスター発表」という発表形態について説明した。そして、7月7日から7月13日までの一週間を、各受講学生が発表のテーマを決める期間とした。テーマは、三重県に関わりのあるもの（名所、産物、三重県出身の人物など）ならなんでも可とした。テーマを決める期限は7月9日としたが、複数の学生が選んだテーマが重複した場合、7月9日から13日の間に、どちらか一方の学生に別テーマを選ばせるよう調整した。その結果、伊勢うどん、松尾芭蕉、石神神社、ナガシマスパーランド、真珠、伊勢えび祭り、鳥羽水族館、横山展望台、三重県の産業、夫婦岩がテーマとして選ばれた。

先のテーマの決定について少し説明を加える。7月の本取り組みに先立ち、本科目では5月の課題として各学生にパワーポイントスライド（ポスターではない通常の発表用のパワーポイントスライド）を作成させていた。スライドの内容は、7月の本取り組みと同様、三重県に関わる何かについて調べ、それをパワーポイントにまとめるというものであった。7月の本取り組みのテーマは、5月のスライドと同じテーマでも別のテーマでも良いとしたが、別のテーマを選んだ学生には、学期末の成績に加点するとした。その結果、全10名の受講学生中、6名が5月と同じテーマを選び（真珠、伊勢えび祭り、鳥羽水族館、横山展望台、三重県の産業、夫婦岩）、他の4名が5月とは異なるテーマを選んだ（伊勢うどん、松尾芭蕉、石神神社、ナガシマスパーランド）。

テーマの決定に続き、7月14日から20日までの週を使って、パワーポイントを用いた発表用ポスターの作成を課した。筆者が過去に実際の学会で発表したポスターを例として提示し、プレゼンテーション用ポスターの作り方を説明した。それを受けて学生はポスターを作成し、筆者に提出した。提出されたポスターは筆者が確認し、日本語文等の修正を行った（または修正を指示した）後、各学生に返却した。（ただし、筆者が修正したポスターを用いず、日本語文が間違っただまのポスターを使ってプレゼンテーションをした学生が1名いたことを付記する。）

ポスターの作成が終了した後、7月21日から26日までの間に、学生各自に自身のプレゼンテーション動画を作成させた。この発表動画作成に当たっては、Zoomを使って自身を録画する方法を説明したワードファイルと説明動画を学生に提示した。ただし、どうしてもZoomを使って自分を録画することができないという学生に対しては、最低限、携帯電話等を使って自分の発表の音声を録音し、その音声ファイルを筆者に提出しても可とした。結果、2名の学生が動画ではなく音声ファイルを提出したので、この学生らのプレゼンテーションに関しては、筆者がZoomでその学生のポスター表示しながら音声ファイルを再生し、動画ファイルを作成した。結果として、この2名の学生の動画ファイルは音声の質の劣るものとなってしまった。最終的に、全てのプレゼンテーション動画ファイルは、7月27日に筆者によってブログに掲載され、静岡県立大学の学生の視聴を待った。

2.3.2 発表とコメント（7月28日～8月4日）

7月28日から前期最終日の8月4日正午までの間に静岡県立大学の学生の視聴とコメントを募った。求めるコメントの内容としては、プレゼンテーションそのもの、または発表者の日本語能力に関する感想、評価、助言などであったが、これは静岡県立大学の学生に事前の案内メールで説明するとともに、ポスタープレゼンテーション動画を掲載したブ

ログの冒頭に記した。7月28日から8月4日までの間に、45名の静岡県立大学の学生全員から一人一つずつコメントが投稿された。コメントの全ては発表の内容及び発表者の日本語能力に対する評価であり、そのほとんどは好意的なものであったが、改善点を指摘するコメントも17件あった。具体的な改善点としては、日本語の発音や言葉の誤用を指摘するものから、ポスター上の字の量、字の大きさ、写真の量、その他のデザインに関する改善案まで様々であった。また、「発表を聞いて三重県に行きたくなった」という感想も23件あった。

3. 事後アンケート

本取り組みを実施した2020年前期最終日に、本科目「日本事情Ⅰ：三重の社会と文化」を受講した学生10名を対象に、本科目に対する全体的な評価を聴取するためのアンケートを実施したが、このアンケートの中の一つのセクションとして、本稿に報告するVE活動に対する質問を含めた。それらの質問を図1に示す。

図1にある質問のうち、本稿では、本取り組みに対する全体的な評価（質問①）、静岡県立大学の学生のコメントに対する感想（質問③）、三重県への理解度の増減（質問⑤）、三重県に対する愛着の増減（質問⑥）、三重県のお勧めの旅行先（質問⑦）、日本語学習に対する意欲の増減（質問⑧）についての学生の回答を報告する。質問①は本取り組みについての全般的な評価を調査し、3.1節で報告する。質問③、⑧はVEによる日本語学習についての効果を調査するものであり、3.2節で報告する。そして質問⑤、⑥、⑦については発表者である留学生が、三重県と母国を結ぶ広報大使となるための素養を得られたかについて調べたものであり、3.3節で報告する。なお、本取り組みに参加した受講学生10名のうち1名（タイ人）はアンケートを提出しなかったため、回答者数は9名であった。また、自由記述回答については、回答の言語を英語とも日本語とも指示しなかったため、英語で回答した学生が1名（ドイツ人）いたが、その他の学生は全て日本語で回答した。

3.1 本取り組みについての全体的な評価（質問①）

本節では、このポスター発表プロジェクトへの全体的な評価として、アンケートの質問①「このプロジェクトに対するあなたの全体的な評価」の結果を報告する。質問①の結果を表1にまとめるが、回答選択肢を左列に、回答数（とその割合）を中列に、その選択肢を選んだ理由（自由記述回答）を右列に示す。自由記述回答の表示については、各回答を原文のまま載せ、その回答者を記号で付記する。タイ人学生2名についてはTS1～TS2、ドイツ人学生3名についてはGS1～GS3、中国人学生3名についてはChS1～ChS3、カ

7月の「静岡県立大学生への三重についてのポスター発表プロジェクト」についてのあなたの評価 Your evaluation on the Poster presentation project toward the students of the University of Shizuoka (in July)

① このプロジェクトに対するあなたの全体的な評価 (一つ選んでください)。Your overall evaluation on this project (Choose one)

- ・とても良かった Very good
- ・良かった Good
- ・どちらとも言えない。Not sure
- ・あまり良くなかった Not good very much
- ・全然良くなかった Not good at all

→上の答えを選んだ理由はなんですか (自由記述回答) Why did you choose the above answer? (Please describe)

② このプロジェクトの課題に対する評価 (複数回答可) Your evaluation on the assignments (making a poster and recording your presentation) (Choose as many as you want)

- ・ポスターを作るのが難しかった It was difficult to make the poster
- ・ポスターを作るのが時間がかかった It was time-consuming to make the poster
- ・動画を録画するのが難しかった It was difficult to video-record my presentation
- ・動画を録画するのが時間がかかった It was time-consuming to video-record my presentation
- ・難しくもなかったし、時間もかからなかった Neither difficult nor time-consuming
- ・その他 Other ()

③ あなたのプレゼンテーションについてブログに書かれたコメントについて、どう思いましたか。(自由記述回答) What do you think about the comments for your presentation on blog? (Please describe)

④ あなたのプレゼンテーションにコメントを書してくれた静岡県立大学の学生の皆さんにメッセージを書いてください。(自由記述回答) Please write a message to the University of Shizuoka students who gave comments on your presentation. (Please describe)

(この回答は、静岡県立大学の学生の皆さんに渡します。Your answers for this question will be given to the University of Shizuoka students.)

⑤ このプロジェクトを通して、三重県への理解度が増しましたか。(一つ選んでください) Through this project, did your understanding of Mie increase? (Choose one)

- ・とても増した Increased a lot
- ・少し増した Increased a little
- ・変わらない Not changed
- ・少し減った Decreased a little
- ・とても減った Decreased a lot

→上の答えを選んだ理由は何か (自由記述回答) Why did you choose the above answer? (Please describe)

⑥ このプロジェクトを通して、三重県への愛着が増しましたか。(一つ選んでください) Through this project, did your love/attached feeling toward Mie increase? (Choose one)

- ・とても増した Increased a lot
- ・少し増した Increased a little
- ・変わらない Not changed
- ・少し減った Decreased a little
- ・とても減った Decreased a lot

→上の答えを選んだ理由は何か (自由記述回答) Why did you choose the above answer? (Please describe)

⑦ もし自分の国の人々が三重県に旅行するならば、どこに行くことをおすすめしますか。(自由記述回答) Where in Mie do you recommend to people from your country if they travel in Mie? (Please describe)

⑧ このプロジェクトを通して、日本語学習への意欲が増しましたか。(一つ選んでください) Through this project, did your motivation on studying Japanese increase? (Choose one)

- ・とても増した Increased a lot
- ・少し増した Increased a little
- ・変わらない Not changed
- ・少し減った Decreased a little
- ・とても減った Decreased a lot

→上の答えを選んだ理由は何か (自由記述回答) Why did you choose the above answer? (Please describe)

⑨ 皆さんの PowerPoint やプレゼンテーション動画を、来学期のこのクラスで、サンプルとして見せたいと思います。サンプルとして授業で使われたくない人は、そう書いてください。Shoji*sensei wants to use your PowerPoints, presentation movies, etc. as samples in the next semester. If you want him not to use your work, please write so.

図 1 本 VE 活動に関する質問①～⑨

ンボジア人学生 1 名については CaS 1 と記す。(TS は Thai student を、GS は German student を、ChS は Chinese student を、CaS は Cambodian Student を表す。) この学生を表す記号は、本稿の全ての表 (表 1～6) に共通であり、例えば、表 1 で TS 1 として示される学生と表 2 で TS 1 として示される学生は同一人物である。

表1 質問①「このプロジェクトに対するあなたの全体的な評価」に対する回答

回答選択肢	回答数と割合	左の回答を選んだ理由（原文ママ）
とても良かった	1 (11.1%)	● (ChS 3) 良いところ、悪いところ、全部書けると素敵だと思います。
良かった	7 (77.8%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (TS 1) たくさん資料を読んだし、いろいろなニュースを読みました。もっとくわしいないようがわかりました。 ● (TS 2) ポスターと発表するのが文章を読みながら、発音練習もできるからです。 ● (GS 1) Zoom と Powerpoint の使い方を勉強になり、プロジェクトはいい経験だと思います。 ● (GS 2) It was fun creating the poster, but it would have been even better if we could have presented them in some form of gallery or something. But sadly that wasn't possible because of corona. ● (GS 3) 日本語でプレゼンテーションを作って、発表するという練習が楽しくて、とくに日本人からのフィードバックはよかったです。 ● (ChS 1) みんなは自分で作ったポストを分かりやすく説明してとてもいいと思います。ただし、発音、説明の技など色々な問題があって、さらに進歩する可能性があります。 ● (ChS 2) 自分の発表を見てもらってコメントをもらえるのがとても楽しかったです。
どちらとも言えない	1 (11.1%)	● (CaS 1) 意見がありません。
あまり良くなかった	0	NA
全然良くなかった	0	NA

表1に示されるように、このプロジェクトに対する学生の全体的な評価としては、概ね高い評価が得られた。その理由として挙げられたのは、いろいろなことが調べられたこと、ポスターを作ったり発表したりするのが楽しかったこと、コメントをもらえるのがうれしかったことなどの本取り組みの全体的な趣旨に深く関わるものから、日本語の発音練習ができたこと、Zoom 及びパワーポイントの使い方を練習できたことなどの限定的なものまで、多岐に渡った。このうち VE に関わる回答としては、他県の大学の学生からコメントをもらえるのがうれしかったとする回答だと考えられる。

3.2 VE を通した他大学の学生との交流による日本語学習意欲の喚起

本取り組みの目的の一つが、VE を通して他大学の学生と交流することで、受講学生たちの日本語学習意欲を喚起することであると 2.2 節に述べた。本節では、この目的にかか

る二つの質問の結果を報告する。質問③「あなたのプレゼンテーションについてブログに書かれたコメントについて、どう思いましたか」の結果を表 2 に示し、質問⑧「このプロジェクトを通して、日本語学習への意欲が増しましたか」の結果を表 3 に示す。この二つの質問のうち、質問③は特に日本語学習について質問したものではないが、VE によって得られたコメントが発表者の日本語学習意欲に与えた影響について併せて考察する。さらに質問③の自由記述回答は、筆者が幾つかの種類に分類し、「回答の種類」として左列に示す。表 3 には、質問⑧の選択回答数 (とその割合) を中列に、その選択肢を選んだ理由 (自由記述回答) を右列に示す。(1)

表 2 質問③「あなたのプレゼンテーションについてブログに書かれたコメントについて、どう思いましたか」に対する回答

回答の種類	回答数と割合	回答 (原文ママ)
コメントをもらえること自体への高評価	2 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (GS 2) I think it's great how many people commented on the presentations! Especially the opinions of the Japanese people were interesting, since we get to hear our classmates opinions all the time, but having a completely new perspective was really nice. ● (GS 3) 詳しいところまでアドバイスもらうことはとても良かったです。
コメントで自身の発表が高評価を得たことによる自己達成感・自信の獲得	2 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (TS 1) 思ったよりいいコメントをもらいました。 ● (GS 1) コメントのフィードバックによると、私のプレゼンテーションは大体成功だと思います。ポスターを見つつ、内容に沿ってが分かりやすくなるは私の目的なので、他の学生たちがそうもと思われてくれて良かったです。
コメントの助言に基づく反省・課題の認識	3 (33.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (ChS 1) みんなはちゃんとビデオを見てコメントして誠にありがとうございました。褒め言葉が多いですけれども、未熟だと思って、これからも頑張ります。印象深いのは「重宝」という言葉の読み方の間違いを指摘してくれたことです。録画した時に全然気づかなかったのです。ありがとうございます。 ● (ChS 2) 内容が少なく、ポスターがよく作れなかったと思いました。次はもっと良くできそうです。 ● (ChS 3) みんなから一番問題が短いすぎです。他の発表と比べて、そういうと思います。コメントはいいと思います。
コメントに対する言及なし	2 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (TS 2) 他の人のプレゼンテーションから勉強ができるから、よかったですと思います。 ● (CaS 1) カメラの前に話すのが苦手な私にとって、ちょっと緊張したが、いい経験になった。

表3 質問⑤「このプロジェクトを通して、日本語語学習への意欲が増しましたか」に対する回答

回答選択肢	回答数と割合	左の回答を選んだ理由（原文ママ）
とても増した	2 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (TS 1) もっと日本語がうまくなりたいです。 ● (ChS 3) みんなの発音を聞いて、ペラペラようなかっこいいと思います。これを目指します。
少し増した	5 (55.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (GS 1) 日本人の学生から、ポジティブな批評をもらったので、意欲が増しました。 ● (GS 3) 日本人が面白いと思うプレゼンテーションを作れるために、日本語がもっと得意になりたくりました。 ● (ChS 1) ポスター発表を通して、まだ不足しているところがあって、これからはさらに頑張ります。 ● (ChS 2) 旅行に行ったら、日本語ができないといろいろ不便だと思ったからです。 ● (CaS 1) あるプレゼンテーションの内容は難しかったので、もっと日本語の勉強を頑張らなければならないと感じた。
変わらない	2 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (TS 2) あまり自分で日本語の文章を書かなかったから、日本語の文法はあまり勉強できないと思います。 ● (GS 2) This class did not really challenge me in terms of my ability to speak and understand Japanese and hence I did not learn that much in that regard. I did however learn a few 読み方 or famous places or people, which is nice.
少し減った	0	NA
とても減った	0	NA

表2に示されるように、質問③「あなたのプレゼンテーションについてブログに書かれたコメントについて、どう思いましたか」に対する回答については、回答が同じような内容に偏ることなく、様々な反応が得られた。筆者が分類したところによると「コメントをもらえること自体への高評価」、「コメントで自身の発表に高評価を得たことによる自己達成感・自信の獲得」、「コメントの助言に基づく反省・課題の認識」などに回答がほぼ均等に別れ、多様な効果が得られたことが示唆された。この質問の回答の中では、特に日本語学習の意欲が喚起されたことに言及するものは少なかった。

しかし、表3に示される日本語学習意欲の増減を聞いた質問⑧「このプロジェクトを通して、日本語語学習への意欲が増しましたか」の結果からは、9名中7名から、意欲が「とても増した」あるいは「少し増した」という回答が得られた。自由記述回答に現れるその理由は様々であったが、特にVEを通して繋がった静岡県立大学の学生のコメントを意識していると思われるものは、「(GS 1) 日本人の学生から、ポジティブな批評をもらったので、意欲が増しました」、「(GS 3) 日本人が面白いと思うプレゼンテーションを作れ

るために、日本語がもっと得意になりたくなりました」という意見であった。これらの回答は、発表者が見ず知らずの日本人学生に発表を見せフィードバックをもらうという、VE による効果を示していると考えられる。

一方、自分以外の学生のポスタープレゼンテーションの影響を受けていると思われる回答もあり、「(ChS 3) みんなの発音を聞いて、ペラペラようなかっこいいと思います。これを目指します」、「(CaS 1) あるプレゼンテーションの内容は難しかったので、もっと日本語の勉強を頑張らなければならないと感じた」などがこれに該当する。

ただし、2名の学生 (TS 2、GS 2) が「変わらない」という選択肢を選び、このプロジェクトによって日本語学習意欲が増すことはなかったとしている。一人 (GS 2) は日本語の学習という意味では本取り組みは簡単すぎたことを示唆しているが、この学生はポスター作成に当たっての筆者による日本語の修正および静岡県立大学の学生のコメントから学ぶところはなかったと感じているようである。筆者による日本語の修正、また発表にあたっての発音指導等をより充実させる必要があったと考えられる。またもう一人 (TS 2) は自分で日本語の文章を書く機会が少なかったと述べているが、これについては、ポスター上の分量を筆者がある程度指示する必要があったということを示唆している。

3.3 三重県と母国を結ぶ広報大使としての成熟度 (質問⑤⑥⑦)

日本語学習意欲の喚起に加え、本取り組みの二つ目の目的は、三重県についての調査と発表を行った留学生が三重県と母国を結ぶ広報大使のような存在になることであるということをも 2.2 節で述べた。本節では、その達成度を測るため、三重県に対する理解の深まりを調べた質問⑤、三重県に対する愛着の深まりを調べた質問⑥、特に母国の人々にお勧めしたい三重県の名所を調べた質問⑦の結果を報告する。質問⑤「このプロジェクトを通して、三重県への理解度が増しましたか」の結果を表 4 に、質問⑥「このプロジェクトを通して、三重県への愛着が増しましたか」の結果を表 5 に、質問⑦「もし自分の国の人々が三重県に旅行するなら、どこに行くことをおすすめしますか」の結果を表 6 にまとめる。表 4、表 5 には質問の回答選択肢を左列に、それぞれの選択肢の回答数 (とその割合) を中列に、その選択肢を選んだ理由 (自由記述回答) を右列に示す。表 6 には、質問⑦に回答された三重県の名所を左列に、それぞれの場所の回答数を中列に示すが、複数の場所を回答した学生が何人かいたため、回答数 (17 件) は回答者数 (14 名) と一致しない。また、お勧めする場所にコメントを添えて書いた回答者もいたため、そのコメントも右列に記す。

表4 質問⑤「このプロジェクトを通して、三重県への理解度が増しましたか」に対する回答

回答選択肢	回答数と割合	左の回答を選んだ理由（原文ママ）
とても増した	3 (33.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (GS 2) Not only did I learn about places or interesting spots I didn't know of before, but also important people and of Mie and its economy, which was quite fascinating. ● (ChS 2) 三重県の知らなかったところやものを知ることができたからです。 ● (ChS 3) いいところをよく調べられました。よく理解しました。
少し増した	5 (55.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (ChS 1) 三重県の観光地や状況についてのビデオをみて、三重県に対する理解は増えました。 ● (TS 1) もっと詳しく内容が分かりました。 ● (TS 2) 大体のプロジェクトは観光地だから、三重県についての他のことはまだいっぱいだとおもいます ● (CaS 1) 皆さんが紹介したたくさんのところは自分が行ったことあるからである。 ● (GS 3) ポスタープレゼンテーションのために新しいテーマを選んだかたは少なかったなので、三重県への理解は少ししか増しませんでした。
変わらない	1 (11.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (GS 1) ポスターを準備した皆さんが大体前の PPT 同じテーマについてポスターが作ったので、新しい学ぶことがあまりなかったと思います。
少し減った	0	NA
とても減った	0	NA

表5 質問⑥「このプロジェクトを通して、三重県への愛着が増しましたか」に対する回答

回答選択肢	回答数と割合	左の回答を選んだ理由（原文ママ）
とても増した	2 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (TS 2) プロジェクトを見ると、旅行したいからです。 ● (GS 2) Before coming to Mie and listening to all these presentations etc., I wasn't really sure how interesting this prefecture really is, but I came to realize that it has a lot to offer and that it is definitely worth coming here, even though it is quite 田舎。
少し増した	5 (55.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (ChS 1) 最初は三重県が田舎だと思って、あまり魅力がないです。でも、やはり地味な県も発掘できる点もあります。 ● (ChS 2) 三重県のきれいな景色や食べ物をもっと好きになったからです。 ● (ChS 3) いい景色を多く知りました、行きたいです。 ● (TS 1) まだいろいろな観光地に行きたいです。 ● (GS 3) もうマックスだったからです。

変わらない	2 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ● (GS 1) 前より愛着が増しませんでした。紹介されたテーマは新しくないのですから。 ● (CaS 1) 三重県は素晴らしいところがたくさんあるとずっと知っていたので、愛着があまり変わなかった。
少し減った	0	NA
とても減った	0	NA

表 6 質問⑦「もし自分の国の人々が三重県に旅行するなら、どこに行くことをおすすめしますか」に対する回答

回答の種類	回答数と割合	自由記述コメント (原文ママ)
伊勢神宮	4 (23.5%)	● (ChS 1) やはり伊勢神宮です。伊勢神宮内宮の近くにあるうどん屋はとても美味しいです。おすすめです。
夫婦岩	3 (17.6%)	● (TS 2) 綺麗な場所で日本の伝統的と文学も楽しめるからです。
鳥羽	3 (17.6%)	● (TS 1) 私はまだとばに行くことがないので、ただ一緒に行くならいいと思います。また鳥羽はいろいろな観光地があります。例えば、みきもととか鳥羽水族館。
横山展望台	3 (17.6%)	● (CaS 1) 三重県について言うと伊勢神宮やなばなの里や伊賀流博物館などよく知られているので、別のあまり知られていないところを紹介したい。そのため私が紹介した横山展望台を進めたい。
赤目四十八滝	2 (11.8%)	● (GS 1) その場所は綺麗だし、日本の自然が楽しめるし、いい経験だと思います。
ナガシマ スパランド	1 (5.9%)	
山の方の自然	1 (5.9%)	

まず、三重県への理解度についての質問⑤への GS 1 と GS 3 の回答 (表 4)、そして三重県への愛着についての質問⑥への GS 1 の回答 (表 5) が、本取り組みのプレゼンテーションが新しいテーマではなかったため学ぶところが少なかったとしていることについて説明したい。前述 (2.3.1) の通り、7月の本取り組みに先立って、5月に本科目の受講生達は三重県に関する何かのパワーポイント作成を行っており、全 10 名の受講生のうち 6 名が、その 5月のパワーポイント作成に選んだテーマと同じテーマを、7月の本取り組みでも扱った。そのため、その 6名のポスター発表の内容は 5月の時点で既習であったことが、これら GS 1 と GS 3 の回答に反映されていると考えられる。

(前段に説明された GS 1 と GS 3 の回答を除き) 表 4 および表 5 に見られる質問⑤、

⑥への回答からは、概ね三重県への理解度および愛着が増したものと解釈できる。三重県への理解度と愛着が増した理由としては、自身の発表のために三重県のことについて調査ができたから、または自分以外の学生の発表を見ていろいろな場所を知ることができたからということが多い。後者の理由づけについては、特に質問⑤と質問⑥に対して「とても増した」と回答したそれぞれ2名の学生の、これまで知らなかった三重県のところなどを知ることができたとする記述に反映されている。また、表6に示される、質問⑦「もし自分の国の人々が三重県に旅行するなら、どこに行くことをおすすめしますか」に対する回答についてであるが、5名が、自分自身が発表したテーマとは別の場所（他の学生が発表した場所）をお勧めの旅行先として挙げている。この結果からは、学生達が、自分が詳しく知らなかった場所についての自分以外の学生のポスター発表を見ることによってその場に魅力を感じたという可能性が示唆される。

5. おわりに

本稿は、外国人留学生を対象とした三重大学の科目において、VEを用いて、他県の大学生に三重県について発表する取り組みの実践を報告したものである。その目的は、第一に日本語学習意欲を喚起すること、第二に三重県と母国をつなぐ広報大使のような人材を育成することであった。第一の日本語学習意欲については、見ず知らずの他県の大学生に発表を視聴してもらい、コメントを得ることによって、自分の日本語能力に対する自信の獲得や課題の認識などの効果が得られ、さらに自分以外の学生のポスター発表を視聴することによっても日本語学習への意欲が喚起されたことが確認された。また、第二の目的である三重県と母国をつなぐ広報大使となり得る可能性についても、アンケートへの回答から、一定の効果が得られたと解釈できる。ただし、本取り組み前後における日本語学習意欲（表3）、三重県への理解度（表4）、三重県への愛着（表5）の増減を調べた質問への回答として、最上位の選択肢（「とても増した」）を選んだ学生は少なかったことに留意する必要がある。これらの質問に対して最も多くの回答数を集めたのは「少し増した」という選択肢であり、受講学生達が担当教員である筆者に対して付度した可能性も考慮すると、筆者が期待したような効果が十分に得られたとは断言できない。実際に本取り組みの目的が達せられたかについては、来学期以降も本取り組みと同様VEを用いた試みと事後アンケート調査を行い、学生に及ぼされる効果を継続的に調査することが必要であると考え。さらに、次回以降の取り組みにおいては、学習効果を高めるために、他大学の学生と相互にプレゼンテーションを視聴しあう取り組みについて検討することを記し、本稿の結語としたい。

[注]

- (1) 本稿 3.2 節に報告される内容のうち、表 2 に示される「VE を通じた他大学の学生との交流による日本語学習意欲の喚起」については、正路 (2021) 「COIL による交流活動と日本語学習意欲の喚起 (印刷中)」『全国語学教育学会日本語教育研究部会ニュースレター』 vol.17 (3) においても報告予定である。

参考文献

- 池田佳子 (2016) 「「バーチャル型国際教育」は有効かー日本で COIL (Collaborative Online International Learning) を遂行した場合」『国際交流』 vol.67, 1-11.
- 正路真一 (2021) 「COIL による交流活動と日本語学習意欲の喚起 (印刷中)」『全国語学教育学会日本語教育研究部会ニュースレター』 vol.17 (3).
- Hagley, Eric (2016) 「Single and dual language virtual exchange for language learning」『東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究収録』 vol.65, 26-32.
- Hagley, Eric Thomas & Harashima, Hideto. (2017). Raising the intercultural understanding and skills of EFL students through virtual exchange on moodle. *Proceedings of Moodlemoot Japan Annual Conference*, vol.5, 28-33.